

1

3年間の計画

	目標	平成30年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
幼小中連携 中学校ブロック保	り、自立していく。 保幼小中が一体となる	教科指導[教育課程]を通じて、たて・よこのつながりを深める。 【保幼・小、小中、小小】 Plan ・合同授業で教科や教科外(支援・養護)部会の実施	H31年度の成果をもとに、各校の交流を深め、それぞれの園・学校で実践にうつしていく。[生活面も含む] De (掲示物・カリキュラム・連携カリキュラムなど。)	H29、H30年度の成果をもとに目標実現にむけて、実践等の交流を深める。(学びのシンポジウム) 道徳講演会の公開・評価研修 See ・課題を把握し、改善していく。
確かな学力の育成	学ぶ 豊かな表現力を持ち、自ら考え、自ら考え	①基礎学力の定着 ・朝読、朝学、漢字の習熟、一言日記 ②外国語活動の充実 ・研究授業(年3回以上) ・職員研修、教材研究 ・モジュールの設定 ③豊かな表現力を育む ・ペアグループ活動の充実 ・読む、書く、発表を取り入れる ④学び力 主体的な授業の実施	①基礎学力の定着 ・朝読、朝学、漢字の習熟、一言日記 ②外国語活動の充実 ・研究授業(年3回以上) ・職員研修、新教材の活用 ・モジュールの活用 ③豊かな表現力を育む ・グループ活動の充実 ・読む、書く、発表を取り入れる ④学び力 対話的な授業につなげる研修	①基礎学力の定着 ・朝読の充実・漢字、計算の習熟 ②外国語活動の充実 ・研究授業・公開授業 ・職員研修、教材研究 評価基準の作成 ・外国語活動・モジュールのPDCA ③豊かな表現力を育む ・グループ活動の充実 ・読む、書く、発表、西小祭り ・目的や場に合った言葉遣い ④学び力 深い学びにつながる授業の研修
豊かな人間性を育む	夢を持ち、仲間とつながる	①人権教育の推進 ・平和学習(朝会、交流会) ②道徳教育の研究 ・別業づくり ・研究授業や公開授業 ③特別活動の充実 ・児童会活動 ・朝会・校外学習 ④あいさつ活動の啓発	①人権教育の推進 ・平和学習(朝会、交流会) ・職員研修や公開授業 ・他の人権分野をテーマに ②道徳教育の研究 ・研究授業や公開授業 ・別業の見直し ③特別活動の充実 ・児童会活動 ・朝会・校外学習 ④あいさつ活動の推進	①人権教育の推進 ・自分の命を尊重する(朝会、学級会) ・平和学習(朝会、交流会) ・職員研修や公開授業 ・一人ひとりの良さを見つける ・学年の縦系列をそろえた人権学習 ②道徳教育の研究 ・研究授業や公開授業・評価 ③特別活動の充実 ・児童会活動・西小祭り ・朝会・校外学習・支援学級公開授業 ④あいさつ活動の充実
健康・体力の増進	とくむ 自分の体を知り、自ら体力・健康づくりに	①体力づくりの実施 ・朝マラソン ・茨木っ子運動による体幹育成 ・体育の時間に行う短時間運動 ・冬期体力づくり(マラソン大会、なわとびのとりくみ) ・水泳、 ・多様な外遊び ②各学年指導計画に基づいた体育学習の推進 ③健康教育、食育の実施 ・自分の命は自分で守る ・各学年の保健学習の推進 ・保健指導(身体測定時、委員会)	①体力づくりの実施 ・朝マラソン・ ・茨木っ子運動による体幹育成 ・体育の時間に行う短時間運動 ・冬期体力づくり(マラソン大会、なわとびのとりくみ) ・水泳、 ・多様な外遊び ②各学年指導計画に基づいた体育学習の推進 ③健康教育、食育の実施 ・自分の命は自分で守る ・各学年の保健学習の推進 ・保健指導(身体測定時、委員会) 手洗いうがい推進	①体力づくりの実施 ・朝マラソン・朝の外遊び ・茨木っ子運動による体幹育成 ・体育の時間に行う短時間運動 ・冬期体力づくり(マラソン大会、なわとびのとりくみ) ・水泳 ②各学年指導計画に基づいた体育学習のカリキュラム見直し ③健康教育、食育の実施 ・自分の命は自分で守る(防災訓練) ・各学年の保健学習の充実 ・保健指導(身体測定時、委員会) ・手洗いうがい推進 ④安全教育 ・危機回避能力の育成 ・危機管理マニュアルの見直し
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

(領域ごと)	
①話すこと・聞くこと	良好な結果であった
②書くこと	良好な結果であった
③読むこと	良好な結果であった
④言語事項	概ね良好な結果であった

(問題形式)	
①選択式	大変良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	良好な結果であった

(無解答率)	概ね良好な結果であった
--------	-------------

(その他)

最も正答率の高い設問

2二「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」の正答率が高い。

最も正答率の低い設問

1四(1)イ「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」の正答率が低い。

分析

国語の領域「話すこと・聞くこと」、「読むこと」については全国平均を上回り良好な結果であった。

「書く」という領域では、全国平均を下回る問題もあった。

話し手の意図を捉えたり、目的に応じて読む、質問をするという問題は正答率が高い傾向にある。

自分の考えをまとめたり、条件に合わせて理由を明確にしながらかくという問題は正答率が低い。

接続語を使った問題や、漢字の問題の正答率が低い。

結果が良好であった要因としては、各学年で系統立てたカリキュラムの作成と実行ができたことと、家庭と連携を取り、児童の学習の手助けを行えたことだと考えられる。また、条件に合わせて書くということへの苦手意識や練習不足に課題が残る。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|-------|--------------|
| ①数と計算 | 大変良好な結果であった。 |
| ②量と測定 | 大変良好な結果であった。 |
| ③図形 | 大変良好な結果であった。 |
| ④数量関係 | 大変良好な結果であった。 |

(問題形式)

- | | |
|------|--------------|
| ①選択式 | 大変良好な結果であった。 |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった。 |
| ③記述式 | 良好な結果であった。 |

(無解答率)

大変良好な結果であった。

(その他)

最も正答率の高い設問

3 (1)「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる」の正答率が高い。

最も正答率の低い設問

3 (2)「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる」の正答率が低い。

分析

算数は全国平均と比べて、大変良好であった。

その中でも計算の技能やグラフの読み取りの力は高い傾向にある。

基本的な図形の構成や図形の性質について理解している。

示された計算の仕方や図形の面積の求め方を解釈し、式の成り立ちを記述で説明することに課題がある。

無解答はなく大変良好であった。

結果が良好であった要因としては、各学年で系統立てたカリキュラムの作成と実行ができたことと、家庭と連携を取り、児童の学習の手助けを行えたことだと考えられる。また、自分の考えを整理し、他者に説明するということが課題が残る。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・全体的に全国平均を上回っている。
- ・無解答率は下がっている。
算数に関する無解答は見られなかった。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・学力低位層は、減少傾向にある。今後も基礎学力の充実、教材研究を深め意欲関心の向上を図る。
- ・個別の支援による底上げ。
- ・国語の学力高位層は減少、算数は増加している。学力高位層の児童は、自分の考えを相手に、よりわかりやすく伝えるための表現方法を用いて、さらに学びを深めることで、全体の学力向上を図る。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

〈国語科〉 正確に理解し適切に表現する力の育成をめざす。

- ・学力テストの結果から基礎的・基本的な知識理解は概ね良好である。

○話すこと聞くこと

話す指導では、相手や目的意図に応じて事柄が明確に伝わるように工夫する。

- ・話す順序・構成・適切な言葉遣いで話す。

聞く指導では、話の中心や話し手の方向を見て、意図をとらえながら最後まで聴く力をつける。

- ・質問をしたり感想を述べたり、他者と比較し意見が言える力の伸長を図る。

○書くこと

- ・正しい姿勢で鉛筆を持ち書くことへの抵抗をなくす。
- ・目的や意図に応じて内容を明確にして書くことができる力をつける。
- ・事実と感想、意見を区別する。・目的や意図、条件に合わせ要約して書く。
- ・目的や意図に合わせ詳しく書く。
- ・漢字の定着を図るとともに文中や日常生活で正しく使用できる。
- ・各学年で系統立てた「書く」取組みを行う。

○読むこと

- ・目的や意図に応じて要点を読み取り、自分の考えを明確にしながらかみ進める。
- ・読書活動では、「朝の読書タイム」「読書カード」「読み聞かせ」の継続的な取組みを行う。
- ・図書支援サポーターの活用を図りながら、読書好きな児童のさらなる増加を目指す。

〈算数科〉 数学的な見方考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に答える力の育成をめざす。

- ・学力テストの結果から基礎的・基本的な知識理解は良好である。
- ・計算の仕方や考え方を記述で説明する力をつける。

○数と計算

- ・数概念の形成とその理解を深める授業と計算力の向上を図る。
- ・計算を能率的にするための工夫をしたり、計算に関して成り立つ性質を見出し、表現できるようにする。

○図形

- ・図形を構成する用途に着目させる。図形概念の形成や基本的な性質の理解ができるようにする。
- ・問題の解答の検討をつけさせる力や、複数の情報を関連付けて論理的に考察し数学的に表現できる力をつける。

○量と測定

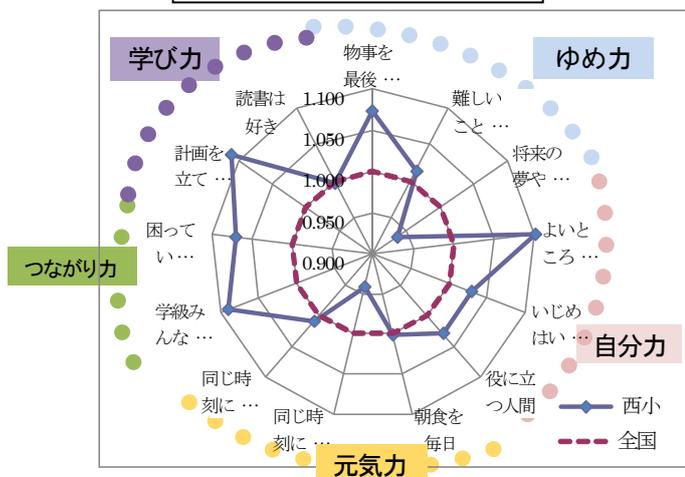
- ・場面の状況に応じて、数理的に捉え、数学的に表現・処理し、結果から判断ができるようにする。

○数量関係

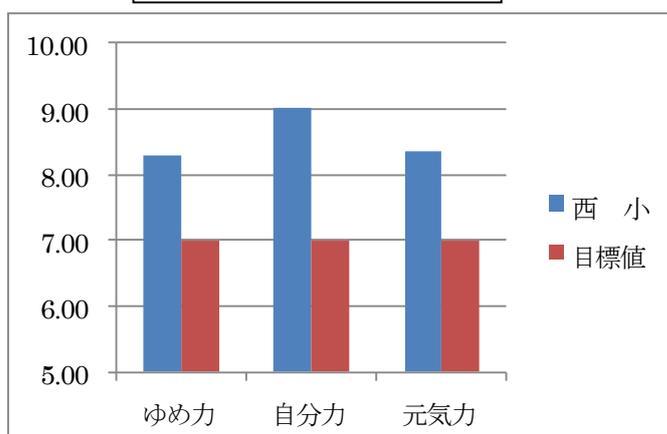
- ・資料から考察したり、複数の資料から特徴や傾向を関連付けて判断できるようにする。
- ・計算の順序についてのきまりを理解できるようにする。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較（レーダーチャート）は13項目、目標値との比較（棒グラフ）は、3項目とも実地した『ゆめ力』『自分力』『元気力』のみとなっています。

分析

- ・「よいところがある」という項目が全国平均より高く、自己肯定感が高い。
- ・「同じ時刻に起きる」「同じ時刻に寝る」という規則正しい生活習慣に関わる項目が全国平均よりやや低い。習い事の影響が考えられる。
- ・「学校の決まりを守る」「いじめはいけない」という意識が育ってきている。
- ・「物事を最後までやりとげ、うれしかったことがある」という項目が全国平均より高い。
- ・目標値との比較において、ゆめ力・自分力・元気力は目標値を上回っている。
- ・つながり力・学び力は全国平均よりは高いが、市の目標値よりは下回っている。

取組み

(ゆめ力の育成のために)

- ・将来の自分につながるよう、夢を持ち6年間を通してキャリア教育を計画的に取り入れ、夢や志を持って粘り強くチャレンジする子どもを育成する。
- ・計画を立てて学習に取り組めるよう、個々のライフワークに合わせて支援する。
- ・最後まであきらめずに粘り強く努力する力を育成する。

(自分力の育成のために)

- ・「主体的・対話的で深い学びのある授業」に努め、自己有用感の向上につなげていく。
- ・規範意識の向上。

(元気力の育成のために)

- ・「早寝、早起き、朝ごはん」など基本的な生活習慣の確立をめざす。
- ・元気よく遊び病気やけがを予知し、自制できる子を指す。

(つながり力の育成のために)

- ・豊かな人間性を育むため、特別な教科道徳の時間を大切にする。
- ・人権学習を計画的に行う。
- ・友だちの考えや意見を最後まで聴き合い、やり取りができる力の育成。

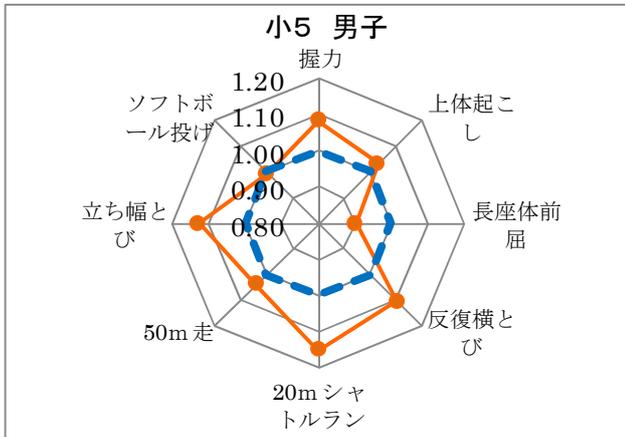
(学び力育成のために)

- ・「書く力の充実」根拠や条件にもとづいて書くことができる力をつける。
- ・自分が「なぜ」「どうして」と思った事柄について自分で解決しようと探求する力をつける。
- ・ICT機器を活用し、興味のあることや疑問に思ったことをすすんで調べ、調べたことやまとめたことを発表するなど主体的な学びへつなげていく。
- ・読書活動の充実。「読書ノート」「本の帯コンクール」など子どもを本好きにするしかけを全校で取り組んでいく。

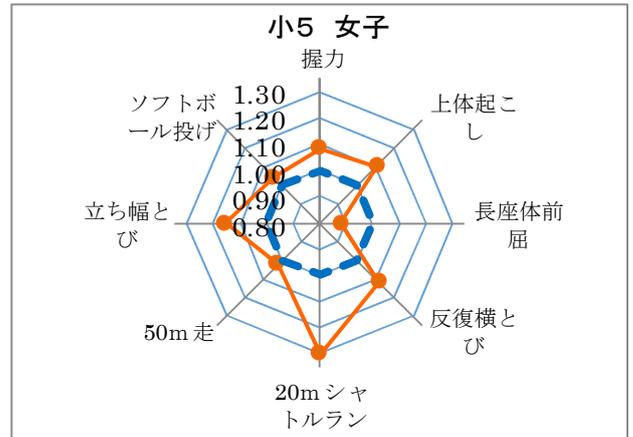
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

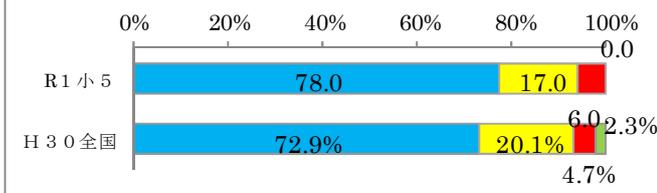
男子 (小5) H31



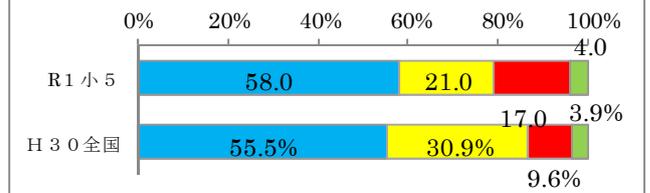
女子 (小5) H31



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■やや嫌い ■嫌い

■好き ■やや好き ■やや嫌い ■嫌い

分析

《5年男子》

- ・立ち幅とび、握力、上体起こし、反復横とび、20m シャトルランが大変良好な結果であった。
- ・ソフトボール投げ、50m走におおむね良好な結果である。
- ・長座体前屈に課題がある。

《5年女子》

- ・立ち幅とび、握力、上体起こし、反復横とび、20m シャトルランは大変良好な結果であった。
- ・50m走、ソフトボール投げにおおむね良好な結果であった。
- ・長座体前屈に課題がある。
- ・男子と同様女子も、立ち幅とび、握力、ソフトボール投げには多少の伸びがある。
- ・授業研究部は、男女ともにバランスに課題があり、計測方法を含めた対策を講じていく。

取組み

- ・低学年から「体づくり運動」に取り組み、全学年で領域に偏りのない学習計画を立てて実践し、学校全体として授業研究部を中心に推進していく。
- ・体育の時間に、「茨木っ子運動」を正しくできるようにし、体幹と柔軟性を鍛える手立ての一つとする。
- ・多様なボール運動を提示し、ボールに親しむ環境づくりを行うなどして、ボール投げに関する運動能力を育成する。
- ・走・跳・体づくりの短時間運動等に取り組み、基礎的運動能力、特に投げる力と柔軟性の向上に努める。